がんばろう
南三陸町
復興第６０号

南三陸マイタウン情報 月刊

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集　千葉伸孝

町民待望のウジエスーパー建設へ

先月 17 日にウジエスーパーの新店舗の起工式が開催された。震災前に志津川地区のスーパーとして南三陸町民から親しまれたウジエスーパーも、３.11 の大震災で全てを流失したが、店員の来客への避難誘導や従業員避難対応で、来客や従業員には死者はでなかったと聴く。

震災後まもなくウジエスーパー出店の「嘆願書」の署名活動があり、１か月余りで志津川・戸倉・入谷・歌津地区の 1500 名を超える要望書の署名簿を、まだ町民・町が震災の混乱の中で町に提出したが、建設とはならなかった。

震災後は今の志津川商店街の隣りへの再建計画も、町の復興計画が決定していない事で、店舗の建設には至らなかった。入谷地区にも出店要望があったものの、費用対効果の観点から出店はされなかった。ウジエはこれまでの志津川地区での経営で、多くの利益に恵まれ、その恩返しは「早期出店」と取り組んで来た。出来る事からとバスによる「車上スーパー」を南三陸町内に走らせた。採算は別にした以前のお客様への被災者支援があった。多額の採算割れの中で、顧客の確保と支援を続けてきた。今年の夏（７月末）にはオープンを予定していると言う。三社の代表と佐藤町長など関係者が約 40 名が出席し地鎮祭を行った。

アップルタウン南三陸ショッピングセンター概要
国道 45 号沿いの 14m 嵩上げの「被災市街地復興土地企画整理事業地内（ 天王前 ）」、敷地面積は約 2 万 4 千㎡。・ウジエスーパー　約 1887 ㎡・薬王堂　約 1000 ㎡・ホームセンター「ダイユーエイト」約 3400 ㎡
310 台の駐車場と 162 台の駐輪場を整備

建設場所も志津川地区中央団地の向かいとなり、南三陸町の丁度ど真ん中に立地する。志津川の３つの高台団地を結ぶ「高台横断道路」が 28 年度に整備予定なので、車でも来店しやすくなる。また、国道 45 号から駐車場へも入りやすく広い、車の無い方にも巡回バスが停車しやすい場所で、スーパー内に「停留所」の設置も期待される。志津川東団地からも新しい道路が整備され、住民生活の「買い物の場」の確保が、震災から６年５か月で完成する。商品選択ができ生鮮食品が安価で買える町になる。住民の今の最大の願いがもう少しで叶う。

従業員の雇用にあたっては、３.11 の被災後にこれまで雇用していた従業員の要望に添い、近隣の同店スーパーで雇用を継続した。不足する従業員は地元雇用を中心にと話している。

2015 年の国勢調査で南三陸町は人口減少率が全国３番目！

国勢調査による人口は１万 2370 人となり 2010 年の調査より 5059 人減少（29%）。全国１位は福島原発被害の樽葉町の 87.3%、２位は女川町の 37%だった。

志津川湾のラムサール条約説明会に参加して

11 月 10 日の午後４時から町で設定した、「ラムサール条約の指定」の説明会が、新しくできた細浦・西田地区の高台の集会所で開催され、その説明を聞きに行った。

県内だと登米市長沼などの湿地が既に保存指定されている。南三陸町の志津川湾は、温かい場所で生息する「マコンブ」と、寒い場所で育つ「アラメ」が共生する場所として珍しく、「アマモ」の群生が見られる。また、絶滅危惧種の「コクガン」の飛来する場所でもある。コクガンは全国で５千羽が確認されている中で、100 羽が志津川湾に飛来し、湾に生息する「アマモ」や「アオサ」などを食べに来るのだと言う。こうした生存する湿地や 6m の海底域の環境を維持する為に、「ラムサール条約指定」を受けるのだと話す。

指定となったとしても環境保護の事業補助支援がある訳でもなく、環境の良さが認められると、生産物の価値が上がり、貴重な環境への観光客の流入による水産品の、購買拡大に繋がるのだと言う。 復興した市街地には「自然活用（ビジッター）センター」が建設され、南三陸町志津川湾の素晴らしい自然を今後紹介して行く。

小泉教授の、「発酵で町づくり」

福島県の全国印刷文化展の講演会で、福島出身の東京農業大学の教授で、日本の発酵学のトップの小泉教授の講演があった。多くの自治体の「町おこし」を全国で展開している。ある例を紹介してくれた。

日本国内の 100 軒ぐらいのある農村では、発酵事業に小泉教授のアドバイスを受け「収入アップ」「新しい産品開発」となった。そしてヒット商品となり年間４億円を売り上げ、その地区の活性化に尽力した。一軒あたり 400 万円の収入は農家にとっては大きく、農業の生産品に発酵商品を考案し増収につながった。

その町起こしの内容の一つは、活用を終えたビニールハウスの鉄ワクに、ある品種のカボチャを植え、つるをはわせ、ハウスの上いっぱいにカボチャを実のらせ、太陽を浴びせた甘いカボチャを作った。カボチャを発酵させ「蜜」「粉末」などの商品を、お菓子などに広く活用し、農家の収入の拡大となった。

人間の新たな知恵による、普段は食べられず捨てられていた農作物を、今までにない物に商品化した。総ての農水産品に発酵食品があり、古くから日本の保存技術に発酵がある。とジョークを交えた楽しい講演だった。

パソコン打ち込み内職募集
志津川広報センター　46-3069

全国印刷文化展福島大会

10 月 21 日午後１時半の全国印刷文化展ふくしま大会に参加してきた。北は北海道から南は沖縄まで、800 名の印刷会社・関連業、そして知事・市長、国会議員・通産省の来賓が、福島県郡山市に集まった。

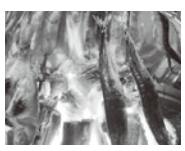
大坂から友好支部の東大阪支部も、今回は気仙沼・南三陸支部との親睦を深めたいと、８名の会員が福島の全国大会を期に、飛行機で仙台空港から陸路で郡山入りをした。翌日 22 日は気仙沼市で交流会を開いた。二日続けての宿泊と祝賀会となった。

全国大会の席上、印刷業界の現状と 10 年後の展望では、売り上げが全体で 2 割減少し、組合員も 3 割が減る事を予想していた。ただそれを待つのではなく、新たな可能性に向かい改革を続けないといけないと、開催県の福島県印刷工業組合の、佐久間理事長は話す。最後に「一緒に頑張って行きましょう !」と締めくくった。共に力を出し合い存続の道を切り開く事こそ大切と、印刷事業者にメッセージを送った。「一人が残るではなく、共に助け合い生き残れる」ことだと私は受け取った。

そして友好支部会員との気仙沼交流会

前日の福島県から引き続き、22 日は大阪府印刷工業組合の東大阪支部一行と、気仙沼市の予約が取れないと言われる、名店「福よし」さんで交流会を開催した。東大阪からの 8 名と気仙沼市と南三陸町から 5 名が出席し、13 人でこれまでの東大阪支部さんの 7 回にも及ぶ、被災地への観光支援活動に対し、3 時間と言う予定を遥かにオーバーし、親睦を深めた。

「福よし」さんでの究極の一品は「吉次（きんき）」の焼き物だった。南三陸町に現在住み、以前の町の志津川町で育っていても、初めての大物吉次の焼き物に驚き、堪能した。これぞ水産業の街気仙沼の、一匹５千円の新吉次焼きを味わった。強烈な炭火で「プロの職人」が目を離す事なく、真剣勝負の神髄の焼き物を食べた。「美味い !」の一言に尽きる。



気仙沼・南三陸支部と東大坂支部の友好支部協定締結から 3 年目を迎え、大坂から 7 回の来町と、被災地「南三陸町」での宿泊と南三陸産品購入を続けてくれている。

最終日は、南三陸町の海産物店「かね久」さんで買い物をし、防災庁舎と大川小への献花用の花も町内の花屋「サトー園芸」さんで購入した。毎回来町時には「未希の家」さんにも寄り、仏前にお土産と焼香をさせてもらっている。その後は歌津地区の民宿「コクボ荘」さんで昼食をとった。立ち寄る店の御主人からは、南三陸町の復興の状況を聴き、「まだまだ商店街と住民の心の復興は先ですね。」と話す。

遠くの友との再会と新しい仲間との出会い、そして会話は自分の肥しであり、被災地「南三陸町」の復興支援となっている事を確信する。今後とも末永い交流活動は、南三陸町の「復興の礎」である事を信じ、対応できるまで続けていきたい。

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成28年（2016年）
～ 地元報道より ～

10月の出来事

南三陸町

◇南三陸町は、志津川入谷・歌津名足地区に整備した災害公営住宅の空き住宅を一般に開放する。空き住宅への入居者は２年を経てもいなく、被災者以外も入居可能。３ DK ～４ DK４戸で、３～４人以上で家賃の高い、県内沿岸部で初めての試みで、人口減少の歯止めとしての定住対策と考えている。

◇９月 30 日から南三陸社協で、「みなさんの作品展」をベイサイドアリーナ交流ホールで、２日まで開催している。今回から仮設入居者以外の人も対象として、写真・絵やジャンボキルト作品など、800 点が展示されている。

◇国交省が 2030 年の国道 45 号の交通量を、三陸道開通により最大で８割減少すると予測した。歌津～本吉間で１日あたり現状では１万３千台に対し、それが 1800 台に激減・減少率は 86％に上った。三陸沿岸の観光業で復興を目指している中で、自治体の誘客対策が今後求められる。

◇南三陸町内５小学校の６年生児童が、志津川市街地の復興作業の現場を見学した。現地の説明では UR の清水市街地整備課長は、「新しい町は津波に強い町を目指します」と児童に説明をした。

南三陸町の志津川湾の藻場の「ラムサール条約」登録を、2018 年に向け住民理解へ説明会を開くなど準備を進めている。環境省は「重要な湿地」と言い、あとは自治体や住民の理解が大切と話す。

◇南三陸町観光協会は町内で生産された海産品や農産物、グッズを盛り込んだ「南三陸町のギフト」の販売を開始した。

◇JA 南三陸は深刻なニホンジカの農産物被災に、捕獲用の「くくりわな」100 セットを寄贈した。

◇南三陸町の予防セミナーが、南三陸病院の医師矢尾板信裕さんが「チャレンジ！生活習慣病予防」をテーマに講演した。被災地での生活習慣病が増えているのは、「不摂生や体質遺伝によるもので、両親が生活習慣病だと 50％の確率である」と話す。

◇南三陸町の「震災復興祈念公園」の設計案がほぼまとまり、町役場での住民説明会で提示された。昨年 12 月に説明会で出された意見を盛り込んだ。2018 年度末の完成を目指し、設計方針を固める。

◇三陸道の三滝堂・志津川小森間が 30 日午後３時半に共用開始となる。

県北一円を中心に 29 店舗を運営するウジエスーパーとアサヒビールが「町の復興に役立てて」と 50 万円の支援金を南三陸町に贈った。

◇宮城県全体の観光客は 6065 万人で、前年より 5.6％（320 万人）増加した。気仙沼圏域の気仙沼市・南三陸町は 215 万人で、前年を 7.5％（15 万人）上回った。県内全体の 3.6％にとどまる。

◇12 日南三陸町議会の東日本大震災特別委員会の開催にあたり、志津川中央団地の施工不良問題の最終説明をＵＲがおこなった。
新新井田川の整備費は８億４千万円で、八幡川整備に３億３千円、どちらもＵＲに業務委託する。

◇被災地の物産販売を支援している、ハワイ日本人女性部「ナデシコ・クラブ」が気仙沼市・南三陸町の生産者を訪れ、今後も被災地の励みにと末永い交流を誓った。

◇気仙沼・本吉地区のクマの目撃情報が昨年の倍の 17 件となった。気仙沼市内では９月までにシカ捕獲のわなに６頭がかかっている。

◇東日本大震災の被災木撤去や崩れた崖からの土砂流出対策として、気仙沼・南三陸の沿岸の対策に 2017 年度までに 11 ヵ所の整備に着手する。

◇南三陸町へ全国の自治体職員の派遣を求めた被災地視察は、36 団体 56 人で県内では最高だった。（全国から県へは 88 団体 147 人）18 日から３日間の状況。

◇南三陸町は年度内に 13 団地の仮設住宅の撤去を開始する。志津川（平磯１期・細浦・入谷小）歌津（韮の浜１期・馬場）計５団地については、町内の解体着手。

南三陸町の歌津伊里前の「福幸商店街」の起工式が、19 日に開催された。地域の再生の願いを込め、29 年４月に８店舗でオープンする。設計者の隈研吾さんなど関係者 80 人が集まった。面積は 4125 ㎡で、建設費は約２億円で、このうち１億４千万円に国の補助金があてられる。

◇ＪＡ南三陸管内の「図画コンクール」で、18 小学校から 80 点の応募があった。優秀賞に髙橋皇蘭（志小１年）、西城八尋（志小４年）の２人が、南三陸町から受賞した。

◇23 日南三陸町の「志津川ＩＣ」の開通前の「ふれあいウォーキング」に、南三陸町や仙台など町内外から 200 人が参加した。

◇南三陸町の宮川安正さん（76）は、気仙沼地方薬物乱用防止指導協議会副会長として、薬物乱用防止の活動の尽力に対し、厚生大臣から感謝状を受けた。

◇南三陸商工会は 11 月４日から７回シリーズで、「みなみさんりく創業者セミナー」を開く。定員は 20 人で町外在住者も受講できる。問い合わせは商工会へ。

◇南三陸町入谷のひころの里で「秋まつり」が開催され、餅まきを２回行い、計 1500 個が振る舞われ、入谷地区の自然を満喫した。

◇安倍首相が 30 日に三陸道の登米志津川道路開通式に出席。

◇南三陸町戸倉公民館で 27 日、町社会福祉協議会主催の「みんなまじゃらいん」と題し、防災集団移転や災害公営住宅に入居した、戸倉団地の皆さんが住民交流会で、久しぶりの再会を喜んだ。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

10月の出来事

気仙沼市

◆茨城県の栄養医療調理製薬専門学校の生徒 33 人が気仙沼市を訪れ、地元菓子職人を講師に、地域に密着した菓子作りを学んだ。

県北部船主協会で大震災後に受け入れた漁船乗り組み員の中から、気仙沼市の熊谷さん（24）が若手船長に。スペインのラス・パルマスから北大西洋に向け初の航海となる。気仙沼港所属の遠洋マグロ船第 18 千代丸（379ｔ）に乗船する。

◆気仙沼市「市制 10 周年記念」の式典を 11 月７日に市民会館で開催。

気仙沼市は、気仙沼まちづくり応援寄付金（ふるさと納税）の業務委託をＪＴＢ西日本に決めた。それにより返礼品が３倍以上となり宿泊クーポンも加わり、ポイント制も取り入れる。本年度の目標を１億８千万円とした（15 年度は１億 3400 万円だった。）

◆気仙沼青年会議所は、親への気持ちを川柳でと題し、「親守～深めよう親子の絆～」の作品を募集した。中学生では、唐桑中の佐藤陽輝君の「アニメより好きなヒーローお父さん」が最優秀賞に選ばれた。

県議会の定例会で境県議員は、本年度予算の観光誘客促進費として３千万円の計上をただした。ポケモンＧＯ（ゴー）を活用する事への費用対効果が疑問と迫った。村井知事は、日本全土や台湾のファンが多く震災の風化もあり、観光客の誘致には欠かせない対策費と答えた。慰霊地や鎮魂への立ち入りに配慮するとつけ加えた。

◆気仙沼市階上観光協会が製造している「岩井崎の塩」の人気が高まっていて、一流ホテルにも納入している。

◆気仙沼中央自治会連絡協議会の創立 30 周年記念講演会が３日開催され、「人と組織と地域のための国際研究所」の川北代表の講演で、生きるための支援が必要と語った。

気仙沼市立松岩中学校菅原進校長が、岩手県警盛岡西署に児童買春の疑いで逮捕された。女子高生に対する買春容疑で、学校関係者・ＰＴＡに大きなショックが起っている。

◆気仙沼市は都市の視点を復興にと、「地域おこし協力隊」を 10 人公募した。第１号は埼玉出身の男性会社員（40 才）で、荒れた山林の自我林業家の育成研修のサポートにあたる。隊員１人への人件費や活動費は年間 400 万円を上限に国から交付される。

県内の高校生が対象の「地産地消弁当コンクール」で気仙沼西高が、５年連続県知事賞を受賞した。西高の作品は来春にウジエスーパーで一般に販売される。優秀賞は気仙沼高校で、ローソンで販売される。

◆鹿折加工協同組合は、シンガポールで開催の海外見本市に初参加し、試験品は現地でも好評で、業務用の商品の輸出を目指す。

◆気仙沼市唐桑町鯖立の復興カキ小屋「唐桑番屋」が、シーズンのスタートをきった。カキ 15 個と、ホタテ２個カキ 10 個の２コースで 1500 円となっている。

◆気仙沼市の水道事業は、昨年度末で事業収益の約５倍にあたる 73 億円の企業債（借金）を抱える。人口減少で水需要が落ち込めば、料金の値上げにも跳ね返りかねない。市は経営改善を進める方針だ。

◆農林水産祭りでさまざまな取り組みを顕彰する大会で、全国の 509 項目から選ばれる「天皇杯」に、唐桑町浅海漁業協議会青年部が最高賞に決定した。海の魅力を子供たちへと、カキ養殖学習支援が評価された。

気仙沼信用金庫南支店の職員が詐欺被害を未然に防ぎ、気仙沼署から感謝状が贈られた。事件は９月 13 日に 80 代の男性が「医療費の還付金について連絡があったが、途中で電話が切れたので手続き方法を知りたい」との電話連絡を不思議に思い、気仙沼署に連絡し詐欺を未然に防いだ。

◆気仙沼市は国の地域おこし協力隊事業を活用し、第１号として埼玉県出身の小柳さん（40 才）に辞令を交付し、民間企業に派遣し被災した企業の再建復興に力をと期待している。

気仙沼市は人口減で交付税減額が回避できない事で、自主財源確保を強化し、新年度予算で経常費５％削減を指示した。一般財源の不足を補う財政調整基金が 15 年度末で 162 億円ある。人口減少による普通交付税の段階的な消滅により、19 年度末には 32 億円になり、復興関連を除いた普通分の「貯金」は 54 億円から 1900 万円まで減少する。

◆気仙沼市立病院の昨年度の事業会計決算では、約４億円の純損失を計上し、一般会計から基準外繰り入れも３億円近くとなる。今年４月の新築となる病院への経営改善策は急務となっている。

◆気仙沼市の災害公営住宅の 2133 戸の整備は、年度内に完成する。整備が最終段階を迎える中で、市の住民の意向調査で 206 戸の空きがでていて、戸建ての消滅を検討している。

◆気仙沼駅前の複合施設（公営住宅 194 戸）の商業スペースの募集にあたり、賃料を半分以下にして 11 月から再募集をする。募集は日用品や食料品を扱う業種に限定する。建設費の償還期間を長くする事で低賃金にする。

◆ロシア国境警備局に連行された、第８朝洋丸（199ｔ北海道稚内所属）が、40 日ぶりの 26 日に気仙沼に無事帰港した。乗組員は気仙沼６人、南三陸５人など 17 人が乗船していた。